

有機 EL 討論会 第 31 回例会にて、「ケミカル加工による可変湾曲可能な有機 EL パネルの開発」を発表致しました。

2020 年 12 月 14-16 日、オンラインで開催された有機 EL 討論会 第 31 回例会（参加者：約 170 名、一般講演=21 件）にて、「ケミカル加工による可変湾曲可能な有機 EL パネルの開発（戦略的基盤技術高度化支援事業）」に関する発表を行いました。

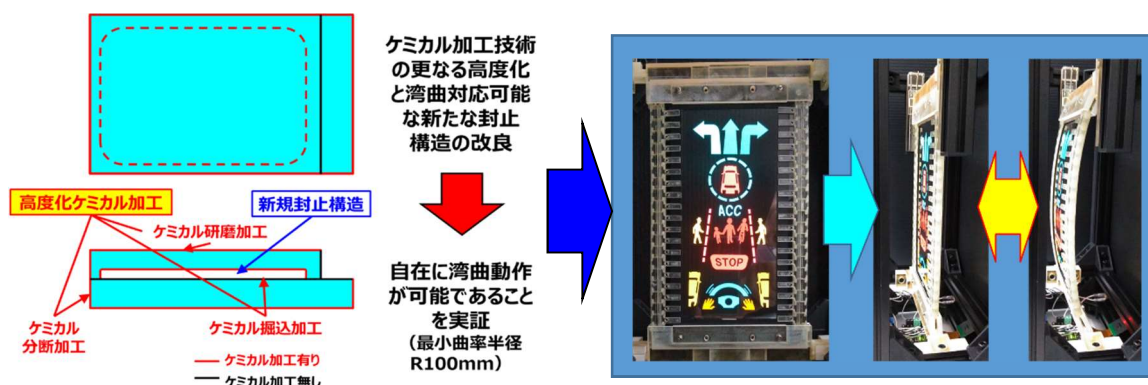
■発表概要

S11-2 ケミカル加工による可変湾曲可能な有機 EL パネルの開発

株式会社 NSC*、山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター**

○富家 夏樹*、谷口 信吾*、梅木 岳志*、田村 達彦*、村上 哲史**、硯里 善幸**

【要旨】車載用ディスプレイ等はデザイン上の観点から湾曲した有機 EL パネルが求められている。(株)NSC と山形大学はケミカル加工による可変湾曲可能なガラス製有機 EL パネルを世界で初めて開発した。本技術は可変湾曲可能な高信頼性有機 EL パネルを安価に提供することを可能にするものである。高度化ケミカル加工を(株)NSC が、超薄型の封止構造を山形大学が開発を担当し、有機 EL パネルの試作にて最小曲率半径 R100mm までの可変湾曲性を実証した。



可変曲面を実現する要素技術

可変曲面の有機 EL パネル
(最小曲率半径 R100mm)

ニュースリリース記載の情報は、発表日現在の情報であり、予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。